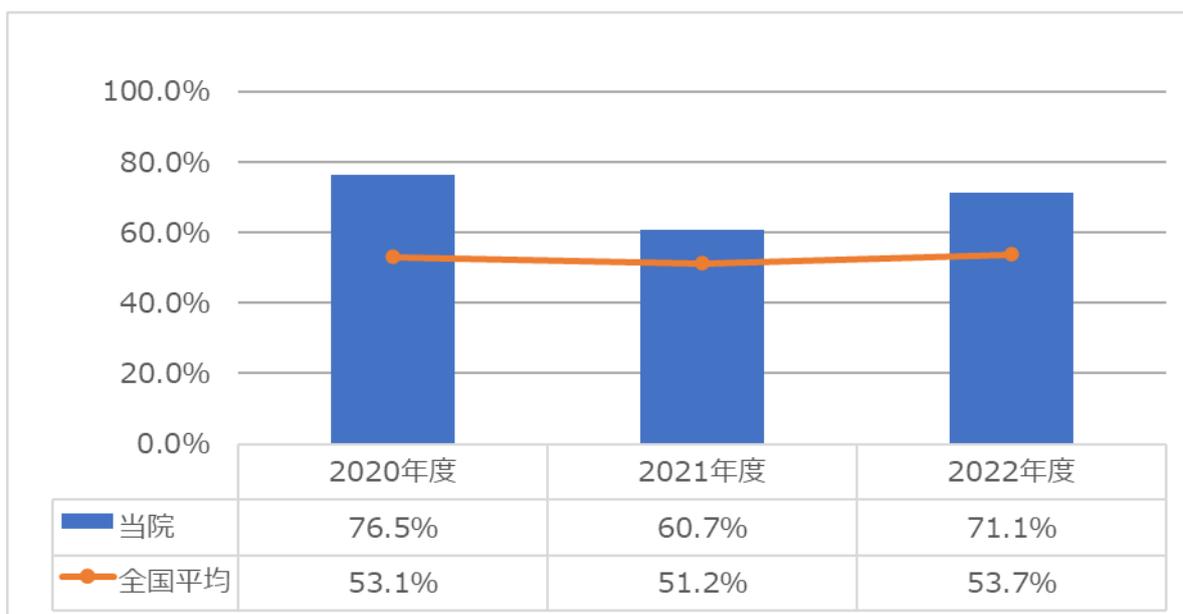


指標 1 1 小児虫垂炎入院症例で超音波検査の施行割合



<定義>

分子	:	分母のうち、入院当日に超音波検査を施行された症例
分母	:	虫垂炎で入院した小児（5歳から15歳）症例
期間	:	2020年度～2022年度（1年毎に集計）
対象	:	上記期間の退院患者
値の解釈	:	高い方が望ましい

<解説>

小児の虫垂炎において、超音波検査は炎症の進行度等を見極め、治療方針を定める上で有効な手段です。CT検査による被曝をできるだけ低減するために超音波検査を最初に行って診断をつけるようにしています。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院QIP事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考 URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院のQIP参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/acts.html>（QIPにおける計測結果）